

□随想□

南の船旅

林田重五郎〈写真も〉

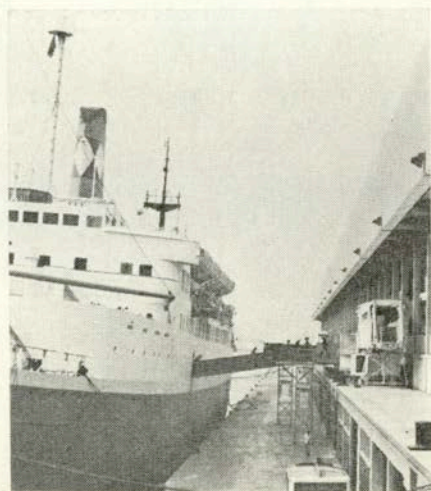


香港のオーシャン・ターミナル内の喫茶店

このごろ船旅もはやっている。日本の旅行社が外国船をチャーターして、香港へ大量の客を送ったのもあれば、旅行社が主催で、二等（エコノミイ・クラス）の団体船旅をしたものもある。時間に余裕があれば、旅心地は船の方が「長く」味わえるというわけであらう。

……定年になって、時間は十分あるし、マニラ往復十五日間の船旅に出てみた。船も豪華船に乗りたい。秩父丸や浅間丸のあるころなら、それにするのだが、昔のユメだ。皇太子さまのお乗りになったAPLのプレジデント・ウイルソン号にする。十段階もある一等のうち、下から四段目を選んだが、船賃、一日三十ドルあまり、シャワーもついているし、船室の広さもホテルなら四、五千円しよう。

……横浜から乗船すると、すぐ「外国」である。一等船客百六十余人のうち、日本人は一割たらず、どこを歩いても英語がとんでくる。船が沖へ出ると、アメリカタバコが七十二円、ジョニ黒



香港のオーシャン・ターミナル（向って右）



プレジデント・ウィルソン号 早朝デッキでのコーヒー

のダブルが二百円少々、マティーニが百八十円で洋酒天国、ただしビールは小ビンで百八円、これは安くない。

。……船客が目立つのが、引退してヒマができたアメリカ人の老夫婦。老婦人ばかりのグループも交っている。多くがサンフランシスコから乗って、香港で下り、マニラから引返してくるこの船を待ってまた帰国する。往復一ヵ月半、香港では買物、見物の焦点は、京都、奈良など。日本への興味が強く、早速キモノはどこで買うのがよいかとか、仏像に金色と黒色があるのは、宗教的な意味があるのかなどの質問にあう。

。……だから定期船とはいうものの、実質は観光船だ。忙しい仕事をもつ人の多い航空機とは客の気分がちがう。今生の思い出に、いままでの世界からとび出して、船での新しい世界を楽しもうとする。船の方もその気分を迎えるように、ブリッジの選手権大会をやったり、ダンスパーティーや映画会やビンゴの会を交替で開くし、高級船員は二言目には「不満足なことはないか」と聞く。老夫婦が仮装の帽子をかむって、風船を追いながらおどけたダンスをしているところなど、なかなか涙ぐましい。

。……船賃を払うかわりに、食住の心配のいらぬ世界である。衣の方は、外人婦人は洋服を全部持って来たのではないかと思うほど、毎夜服装を変え。船長の招待パーティーなど、すごいイブニング姿がそろう。

。……好きなものを選んで食べ放題の三度の食事のほか、早朝のコーヒー、午前十時のスूप、



マニラ港歓迎の民族舞踊

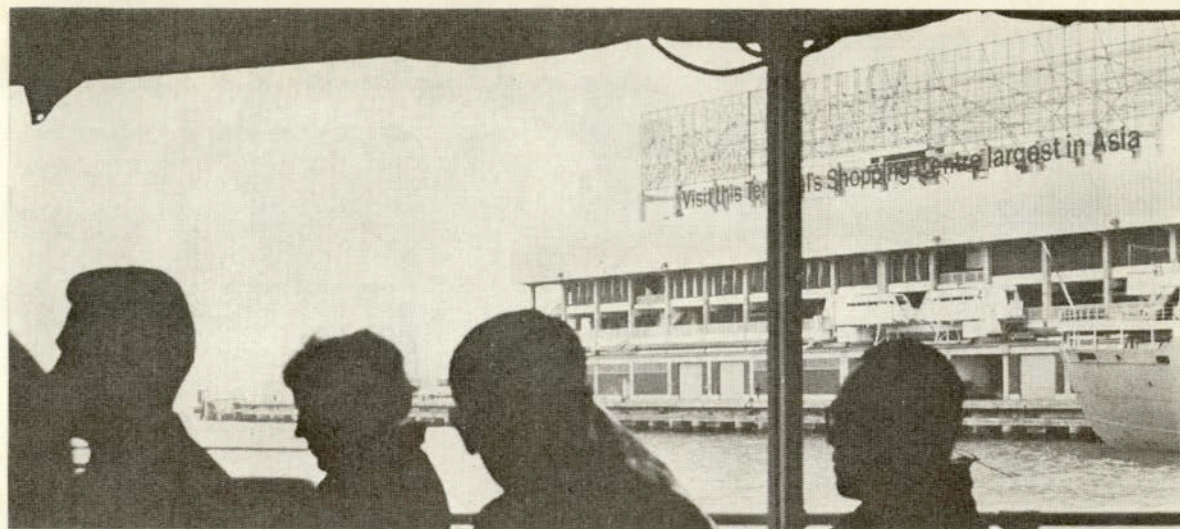
午後四時の茶。船室へは、日本では高価なサンキストのオレンジなど、注文すると無料で運んでくる。デッキには、プールがあるのは珍しくもないが、ゴルフの練習場まで作っている。浮世を忘れて楽しんでくれということらしい。

。……ただし船にはひとつだけ欠点がある。一月の海はしける。ローリングで、船室がミシミシいうのは常のことで、日によると長さ一八五呎もある二万ト級の巨船が、ピッチングするのだからものすごい。デッキの中央でながめていると、船尾の向うに海面が見える。船尾や船首は何十呎も上下しているわけだ。食堂はまばらになるし、船に弱い人にとっては天国も地獄になる。

。……横浜を出た船は台湾の基隆に直航、午前中に着いて、夜まで停泊、ついで香港に一昼夜、折返しのマニラに朝から夜までというように泊まってゆく。復航は香港一昼夜半、長崎が一日、そして神戸へ。どこでも、船の事務室で入港前日に船客から観光ツアーを募集する。昼食つきで一人十ドル程度である。個人で案内者を雇って見物するよりは安いから、応募者は多く、バスの数が何台にもなる。

。……受入れる港の当局も、観光業者も、ドルをおとすお客とあって、歓迎は競争的である。基隆では、船の入港が遅れたためもある。入国管理官が数人も乗船して、一等客を三組に別け一時上陸の事務をスピード・アップした。

。……マニラ港も観光客大歓迎である。突堤では踊り子たちが民族舞踊をくりひろげる。船客の婦人たちには、サンバギータの首輪をかけてまわ



香港のオーシャン・ターミナル（スター・フェリーより）

る。船がその香りでみちみちる。一時上陸者はカードをもらうだけの簡便さだ。ただし長崎では一等客に対し入国管理官がただ一人、えんえんと行列ができて、日本人としては気がひけるほどであった。

……この船旅で特に目についたのは、昨年の五月に完成した香港のみなどのオーシャン・ターミナル（大洋の終着駅）。香港島と九龍半島を結ぶ連絡船スター・フェリーの、九龍側のすぐ横、香港へ航空機で往来する人には目につきにくいが海から来ると「東洋最高」とほこっているだけのことはある。

……四百近い長い突堤、二万ト級の豪華船が一度に四隻着岸できる点は驚かないにしても、ここに建てられた建物には感心する。突堤のほぼいっばいに巨大な三階建、一階の三分の一が、税関、両替待合所などの出入港事務だが、残り二階全部がショッピングセンターで、香港の有名な商店が出店を出している。日本流に言えば、駅などにある有名専門店街だが、広さ約三万五千平方呎、店の数が百あまり、自動車から花まで売っているケタのちがった大きさ。サンチカをそのまま突堤に移したようなものだ。三階と屋上は自動車をパークさせるところ、香港最大の広さである。

神戸の港にもこんな突堤がほしいなあとタメ息が出た。

△朝日新聞本社嘱託・大阪在勤▽



神戸みやげ

三〇〇 一五〇〇 三四〇〇 五一〇〇
六七〇

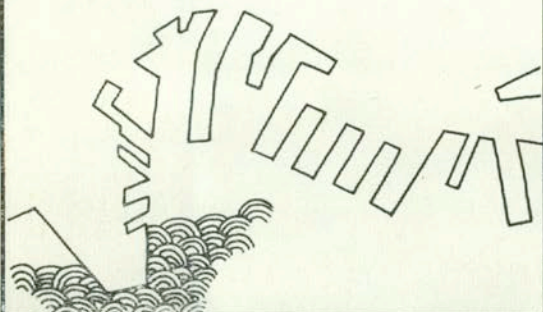
大輪田

港神戸のみやびやかな古名にちなんだ銘菓

一〇〇 三〇〇 五〇〇

コウベピア

港の銘菓
突堤を型どったハイセンスのココアキャンディ



神戸にそだって 70年

月堂

元町3丁目 TEL 33-2412~5
さんちがスイーツタウン TEL 33-3455

LONGINES



流行をはこぶ
ロンジン



特約店



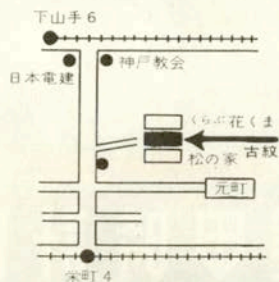
美甲時計店

元町店・元町三丁目 TEL 33-1793
三宮店・さんちがファンシー・タウン TEL 33-8798

割烹「古紋」は神戸・花隈に
新しく生れたカウンター形
式の日本料理のお店です。
お気軽に季節料理を味わっ
ていただける楽しい雰囲気。
ぜひ一度おこし下さいませ。



神戸市生田区花隈町45
でんわ ㊤ 0240



現在このお店を手伝って下さる可愛い
お嬢さんを募集しております。
〈お手伝いの時間はPM4.00～12.00まで〉

おいろがき

お料理

古紋弁当	400円より
おまかせ	1,800円より
古紋コロッケ	300円
古紋湯豆腐	500円
季節一品料理	300円より

お飲物

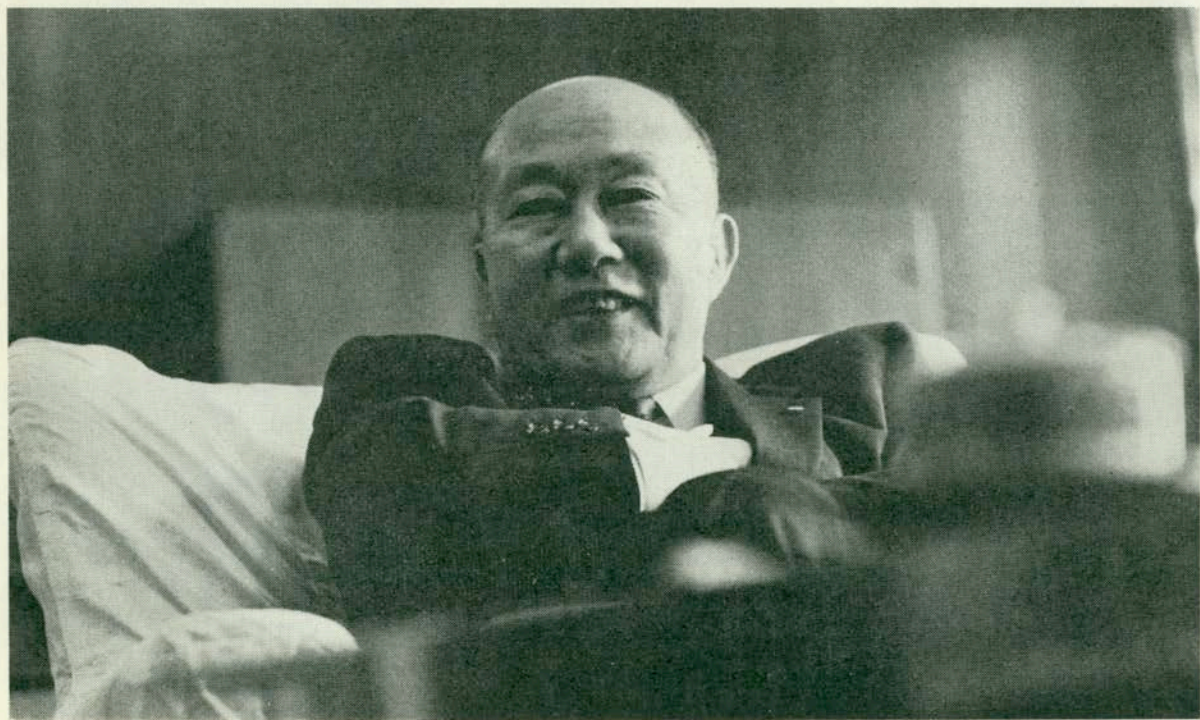
日本酒(特級)	200円
ビール	100円より

古紋のお料理はきめこまやかな風趣と格調たかい
味覚。気軽なお値段で人気を集めています。

◎ 神戸っ子放談 ◎

世界に伸びる神戸

阿部 荘吉 <日本毛織KK社長>



◇須磨育ちの神戸っ子

「生まれは滋賀県なんですがね。小学校三年生のときに須磨へきまして、須磨浦小学校、昔、別荘学校といっていました、そこへ入りました。マッチの滝川清一さんがおられるでしょう。あの方は小学校で同級生です。その後神戸一中へ五年間、家が須磨にありましたから須磨から汽車で三宮まできて、三宮から歩いて通いました。今の元町駅がそのころの三宮駅でね。例のカーキ色の洋服を着てゲートル巻いてね(笑)。一中を出ましてから岡山第六高等学校へ行きました。大学は東大へ行ったのですが、大学を出てすぐこの日本毛織に入社したわけです。それが大正十三年のことです。大正十五年に日毛の名古屋工場へ転勤して昭和三十四年までおりました。

名古屋で非常にながったんです。昭和三十四年に二度の勤めで神戸に帰ってまいりまして、丁度今年で八年になります。ですから神戸っ子は神戸っ子ですけどなかな三十年ほど抜けていますので新米みたいなのところもありますけれど(笑)。古いことはよく知っています。神戸も戦後、変わりましたからね。そのころの神戸はよく知りません」

——中はスバルタの教育方針だったんですか。

「スバルタというのか。つまり質実剛健、自重自治というのが額に入って学校の講堂にかけてありましたね。そのころ有名な鶴崎校長の指導方針だったわけですね。秀才が多く、ぼくは秀才ではなかったのですが、最近辞められた神戸大学の水谷先生など学者が多かったですね」

——須磨のどちらにお住いだったのですか。

「須磨はね。須磨の関守町で、今は枯れましたが、『関守の松』というのがありました。須磨浦小学校のすぐ近所でしたけれど、あの辺は須磨で一番開けたわけですね。離宮道はずっとあとからできたんですよ。ですからあたりは一面、大根畑でした。須磨の駅前からは畑の中を通ったものです。三宮から一中まででも、青谷の高商

のあったところでも付近は大根畑で、今では信じられませんが(笑)」

——そのころの神戸で盛り場といえますと？

「やっぱり元町ですね。そりゃ、元町以外になかったです。昔から元町は一丁目から六丁目まで実にいい店がならんでいました。そのころの店は今では残っていないでしょうけれど。あのあたりに居留地があって東遊園地がよく野球をやっていました。そのころ一中は野球も強かったんですよ。甲子園に出場して優勝したことも一、二回あって、盛んでした。私は柔道をやっていましたが、柔道もなかなか強かったんですよ。

フットボールとか野球とか特に西洋人と試合をする場合には居留地だったから利用していましたね。何しろ古いことで、私が一中を出たのが大正七年だったからあまりくわしいことはありませんが」

◇あゆみつつけた日毛の七十年

——話は変わりますが、今年で会社の方は七十年になります。が会社の生い立ちというようなもの？

「昨年の十二月が丁度七十周年だったんですが、明治二十九年に創立して、川西清兵衛という方が当時三十二才の頃、兼松の金子さんという方に当時神戸港に豪州から羊毛が来ていたらしく、豪州に羊毛が多いということを知られて、その後、昔、赤毛布といって赤い毛布が流行していたので、その見本を日本で作ってはとすめる方もいて、それでは豪州から羊毛をとって一度日本で作ってみようかと考えられたわけです。兵庫の油屋さんでお金持の所へ養子に行かれ、自分のお金もあつたし、兵庫の有力な旧家の人達に相談して、会社を作ることを計画されたんですよ。今の加古川工場に初めて工場を設置、最初はなかなかうまくなくてね。毛布を作っても思うように売れなくて川西さん自らその毛布をかついで大阪あたりへ売りにまわられたという話もある位です。だからずいぶん苦労されたんですよ。加古川工場が

発祥の地で本社がここに置かれたのは、ずっとあとの昭和十年位ですかね。それ以前は今、工場のある兵庫の西出町に長くずっといました。ここへは昭和十一年にこのビルを建てて移ってきました」

—するとあの辺にはカネボウなんかがありましたか。

「そうですよ、カネボウは兵庫が本社工場ですよ。ここを本拠にしています。ずっと和田岬の方ですがね。

私の方は市内には工場はありませんが、加古川工場が第一工場、その次は印南工場、これは大正七、八年頃に来ました。加古川工場の川向いにあります。加古川工場は創立の時に造って、その後、増設増設でだんだん大きくなったので初めからあんなに大きいものではありませんでした。建物は赤レンガで鉄骨なんかは英国から輸入したと記録されていますよ。当時で五十万円もしらしいです。中の機械はすっかり新しいものと変わっていますかね。当時の工場の面影は今でも残っています」

—その頃の技術はイギリスからですか？

「やはりイギリスからもすい分来ていますが、その後こちらからも技師をドイツ、フランス、イギリスなどの先進国へ派遣され、外国技術を導入することにお金も人もかけてやっておられました。そういう意味では相当苦心されてやっておられたようですね」

—今では外国へ技師を出して勉強させるのが常識のようになっていますが、当時としてはめずらしいことだったでしょうね。

「そうですね。それに今ではもう海外へ行つて勉強せんならん技術はありませんけれどね。どっちかという和日本の方が優れているようですよ。英国なんかは羊毛工業国としては歴史は古い、日本の方がずっと能率的になっています。私も昨年英国へまいりましたけど、そう日本は遅れてもいないし、だいたい毛織では世界一ですね。豪州南ア、南米から、昨年羊毛を二十五万俵輸入しましたがね。これだけ日本で羊毛を使うわけです。これは世界的に見ても、それだけ羊毛を使う国はどこにもな

いわけですよ。だから羊毛をこなす力、使う力からいうと日本が世界一になるわけです。英国なんか、古い、伝統の国ですから良いものも出れますが、全部が全部良いものでなく、普通に着るものだったから日本のものの方がよろしいですね。日本人は一般にハクライというものに弱いのでね、高いハクライ品を買いたがりますが、国産品の方が値も安い。最近では世の中の生活程度が上がってきて、合成繊維が多く出ていますが、やはり純毛で、いいもので趣向に合ったものがほしいという全体の需要は毎年増えていますから、われわれとしては、やりやすくなりましたね。」

◇気候風土に合った服装を

—やはり本格的な衣料というものが喜ばれるのでしょうかね。

「日本人は、西洋人のようにたくさん洋服を持ちませんからね。どうせつくるのだったら、いいものをつくらうかということになりますね。この頃ずいぶん既製服が発達しました。だいたい身体に合うものができていますが、それでもやはり、オーダーメイドをつくらうと考える人も多いです。日本人の洋服に対する好みは、ぜいたくなのです。アメリカやヨーロッパに行ってみますと日本人の方が感覚的にもすぐれていますし、昔から絹という織物で色とか柄ということに敏感だと思っています。早い話がゆかたにしても柄が同じだと売れませんね。やはり一反一反違う柄になっていますね。あんなことでもぜいたくなんですよ。最近ではアメリカ好みとか、紳士服は黒っぽいものが流行していますが、ぼくらからみるとちよっとどうかと思いますね。日本の気候とか風土からいうと、もう少し明るい色でなくてはならないと思うのです。」

ニューヨークへ行くと、ビルの谷間で昼の間歩いている町は暗いですよ。そしてほこりは多いし、ネクタイやカラーも、朝着ても昼になると黒ずんでしまう状態で

す。ですから、アメリカの黒い洋服の流行は経済観念からきているもので、日本人がここ二、三年そのマネをしています。日本のように高層建築の少ない、特に神戸みたいに明かるい町であんな服を着るのは、ほんとはおかしいと思います。自動車の色でも明かるく、色はうすい色でしょう。日本の気候風土にはその方が合っているわけですよ。やはりその土地にマッチした服装をすべきだということですね。しかし、若い人の間で流行するのは、販売政策なんですね(笑)。昔は洋服は一着つくると十年ぐらいはそれだけを着たものです。またそれだけもったものです。今、ヨーロッパへ行きますとそれですね。おじいさんの時代に着ていたものだといって着ていますね。アメリカでは、反対に消費して経済の繁栄を計るわけですから。われわれメーカーの側としては、毎年柄を変えて、今年はこの柄という風に流行をつくっていくわけです。ほかの合成繊維もそういうことをしきり



・加古川工場

にやるわけで、販売政策上、流行をつくっていくわけですけど、それもある程度いきますと、ゆきずまってきたね。最近のように黒っぽいものが出てきますと、柄をつくってもそれが受け入れられないようになってきましてね。それが困ります。われわれの立場としては、長い間着ないですてもらう方がありがたいわけですが(笑)。つくる方としては、色がはげると消費者の方で困るということで染料なんか気を使うわけですが、そうすると色あざやかなバステルカラーが出ないんですよ。デパートなんかからは、色ははげてもいいから消費者が飛びつくようなものをつくってくださいといわれるんですが、良心的にそうはいきませんから困る場合もありますね(笑)。

◇世界に伸びる神戸に

— ずいぶん長い間名古屋におられたわけですが、名古屋と神戸をくらべてどうお感じになりますか。

「名古屋はああい土地の広いところでしよう、町も広くとってありますから、そういう場所的な点では非常に恵まれていますね。神戸は場所的には恵まれていませんが、山が近いですからいいですよ。名古屋に三十年間もいるとね、神戸で山をみるのが楽しみでしたよ。町のなかから十分少々で、山の中へ入れるところは、世界中どこにもありませんよ。この間、乾さんと話していたんですが、それだけじゃなく、夏は海水浴、冬はスキーが楽しめる町は、ほかにはないということです」

— 大阪との連繫についてどうお考えになりますか。

「神戸で繊維会社は私のところだけです。銀行へ行っても、どこへ行っても話が合わないんですよ。船会社や鉄鉱会社は多いですから、商売というよりはやはり大阪相手ですね」

— この商売は細かいけれども、一番親しみやすい製品ですね。

「生活の衣食住の中のものですからね、消費者とは関

係が深いですね。会社が古いことや、製品もいいということでも信用されているわけですね。例えば高校の制服はほとんど全国的に日毛の「サージ」を使っています。従来使っていた方が使ってみてよかったというので、多少高くてもいいものがほしい、それなら日毛にしようかということになるのでしょう。私の方は、そういう点では真面目一てんぱり。研究設備も十分ありますしね。くそ真面目というか、そういうのは一つの社風ですね。東京の三越さんとは、もう何十年も前から取りひきしていましたが、日毛の生地を使うとお客さんから苦情が来ないということです。だから、日毛オンリーですよ。やはり七十年の経験の積み重ねでそうなってきたいるんでしょうね」

——ちょうど今、神戸開港百年ということですが日毛さんとは開港に非常に関係があるわけですね。

「そうですね。神戸に日本毛織が出来たということは神戸港とは非常に関係が深いわけです。一番ここに羊毛が入ってきたんですからね。日毛が今後、世界にのびていくのは、やはり神戸からということです。今では、機械はみんな日本製です。英国製よりはるかに能率的な機械が出来ていますからね。もう七十年も経っているんですから、当然日本で出来ますよ。会社の名前も変わらずに七十年来た会社は、うちだけじゃないですよ。他に神戸で古い会社というと、川崎造船くらいですね。あそこも昨年から、一昨年に七十年周年でしたからね」

——これからの神戸について、港はもちろん淡路空港計画もすすんでいますか……

「これからは神戸だけでという考え方はもてないのではないでしょうか。経済的にも産業的にも、観光という点においても、神戸だけという考え方は、たてにくいと思いますね。車で神戸から大阪へ三十分でいけるようになったら、神戸と大阪は、経済的には一緒にならないといけませんね。観光的にも六甲を中心とした神戸、大阪、京都を背景にした全関西的なものにならないとう

そですね。産業的にみると、工場地帯というものは、今の播州を背にして、大阪・神戸という一つの経済都市を背後にした播州の工業都市というものを持つべきですよ。交通では淡路島に飛行場が出来ると、それとまた世界的に結ぶことが出来ますしね。港もやはり大阪・神戸が一つになるべきですね。

まあ、そうすると、神戸のカラーというものはうすれてくるかも知れませんが、回顧的に見ると残念ですが将来を考えると仕方がありません。とにかく神戸、大阪、京都が一緒になってしまいうことです。それには、それらを結ぶ道路が先決です。大阪、神戸を車で三十分で行ける道路が一日も早くほしいですね。そうしないと、神戸もまた発展しにくいです。神戸は港を生かさなければいけません。港を活用するのは大阪、神戸のそれぞれの経済圏が使うのですから。

それから道路です。道路がなければ神戸は孤立化しますからね。孤立化するということはプラスになることは一つもありません。飛行機を使うと東京支店まで二時間あればここから行けるんです。大阪―神戸間が車で三十分になれば名古屋まで一時間半で行けますからね。またそうならないと神戸はどうしても遅れますからね。」

△文責・編集部▽

× × ×
× × ×
×

経済ホケット

ジャーナル



★真珠の海外PR強化

日本真珠輸出組合（本部神戸、横田稔理事長、組合員百九十人）は海外PR活動を強化し、新規需要の開拓に力を入れることを考えている。三月初め東京で開いた初の真珠国際会議では各国代表から「もっと欲しい」との要望が強く、各国とも宣伝費のアップがある程度



▲品質向上が課題の真珠・全真珠輸入会で

価格にハネ返ってもやむを得ない」と暗に認めているので、同組合では五月の総会で具体案を決める。同組合の宣伝費は組合規約で全輸出真珠につきFOB価格の千分の一、年間約二千五百万円を輸出業者から集め、国庫補助金二千五百万円と合わせて年間約五千万円。これを各国に配分す

るとわずかな金額になってPR効果も弱い。国際会議ではフランス、西ドイツ、スイスなど欧州代表が宣伝の一本化を申し合わせたがとりあえず四月オランダで開かれるダイヤモンド祭りにミスパールを派遣する計画。優秀な模造品の普及に対抗するには粗悪品の出回りを防止が当面の課題。

★沖縄で肉牛多頭肥育

スパーチェーン・ダイ

エー（本部西宮、中内功社長）が日本ではまだ珍しい肉用牛の多頭過密肥育を沖縄でやろうと、米国から新しい肥育技術を導入する計画を立てている。いま米国のハワイミート社（精肉加工業者）を通して提携先の選択を進めているが、五月には契約調印する見込み。新肥育法では肉用牛の成育が非常に早く、一般肥育に比べコストが三〇％以上安くなる。多頭過密肥育は三・三平方呎のマスの中に三頭の子牛を入れ、特殊な強化飼料とホルモン剤を与えて短期間にふとらせるも。百五十日で三百鎰の子

牛が五百鎰に成長するが、通路に面してマスを配列するため飼料の投与も機械化され人手も大幅に節約できる。米国の例では二十人で一万五百頭を肥育しておりわが国の普通肥育に比べるとコストは三分の一。ダイエーの計画では当初二千頭の子牛を肥育、将来は頭数を大幅にふやして一般小売の店にも卸売りするという。病菌ブタはびる時代消費者の期待大。

★トンネル跡の利用法

土砂運搬用コンベアのトンネル跡を利用してもらうには。神戸市灘区鶴甲山―神戸港東部第一工区を結ぶコンベアは三十六年未につくられた長さ三・七キロ。鶴甲山付近はトンネル、市街地部分は道路下五層に高さ二・八層、幅二・三層の暗きよ。これまでに大型ダンプ五百万台分の土砂を運び役目を終え、神戸市が五月までにコンベアを取りはずすことになった。当初下水道に利用する計画

だったが、もっとうまい利用方法を考えては―というもの。

このトンネル跡、常時二十度―二十五度の温度とあって①シイタケ栽培②ウイスキー貯蔵もできることがわかり、市では兵庫農大に調査を頼んでいるが、うまいければもうけもの。

★干拓浄水場が完成

神戸市は裏六甲開発の一環として北神地区全域に配水する計画をたて四十年十月から干拓水源地（兵庫区道場町干拓）に浄水場建設を進めていたが、このほど完成し、兵庫区道場町の一部に給水をはじめた。同浄水場は総工費六億五千万円で、昭和五十年までに北神地区一帯の道場、唐櫃、大池など十一万人に給水を予定しているもの。とりあえず道場地区約二百戸のうち希望家庭六十戸に給水しているが、七月末までに鈴蘭台まで本管（約五百メートル）を敷き、約五万人に給水する予定。

KOBEオフィスレディ



富谷 勝子さん (24)

三菱重工神戸造船所総務課勤務

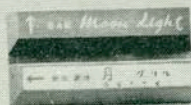
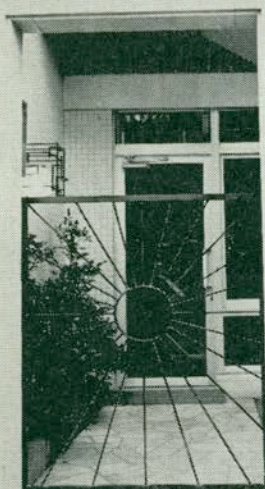
入社して6年。いつもにこやかなほほえみでの応待ぶりは、社内外からの評判はすこぶるよく、神船の玄関をあずかるのにふさわしいベテランである。能等観劇が趣味で、機会あるごとに見に行くという。洋裁やレース編みをしているときも楽しいという女らしい人である。市湊川高卒。

鉄板焼

月

KOBE BEEFの
美味しさを たっぷり!

KOBE IKUTASUJI
<33> 2509



BAR ★ KOBE IKUTASUJI <33> 0886

Moon Light

CLUB ★ KOBE IKUTASUJI <33> 0157

ハワイで流行の
おしゃれサングラス



ハワイアン
ロイヤルグラス



神戸眼鏡院

元町店・元町 3 丁目 ☎333112~3

三宮店・さんちかタウン ☎391874~5



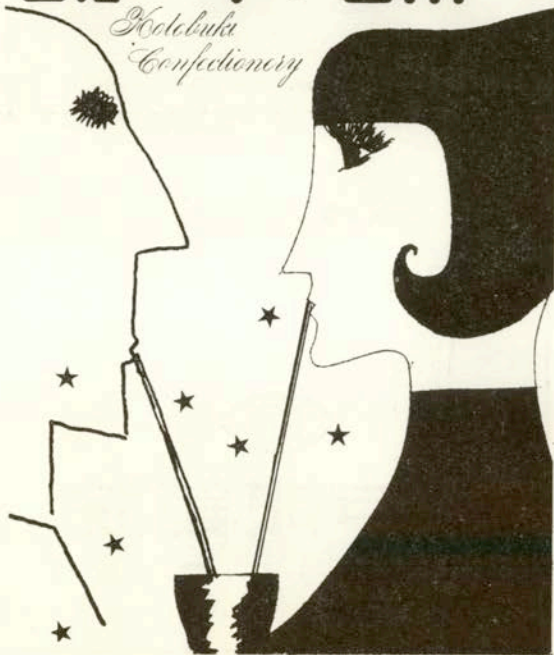
三宮店・阪急神戸駅西口前
TEL神戸(078)-33-0381



お菓子の
コトブキ

寿本舗

*Kotobuki
Confectionery*



幸せな二人の
えにしを結ぶ
結納儀式用品

結納儀式用品
遠藤福寿堂

東店＝トア・ロード高架上 TEL <39>1871～3
西店＝長田区市電菅原 TEL <55>2251～3

●パイオニア神戸

ジョセフ・ヒコ

(浜田彦蔵)

⑤

西松五郎



ボルチモアにて ジョセフ・ヒコ (文久2年(1862)2月22日)

□開国・新聞の父

ジョセフ・ヒコ、少年のころの名は浜田彦太郎。物静かな喜瀬川の流れが播磨灘の海面にそそぐ播州阿間村（あへ）古宮（いまの加古郡播磨町）で生まれた。

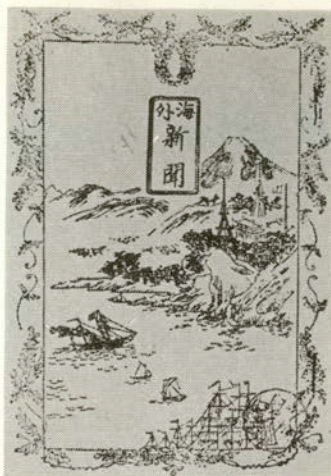
十五歳のとき、江戸見物から播州に帰る途中、乗組員十七人の千石船「栄力丸」が暴風雨のために遠州灘で遭難し、五十日間漂流ののち、アメリカ船オークランド号に救われた。

日本との国交にロシア、イギリスに迫りこまれていたアメリカは、彦太郎ら十七人の漂流民救助を条約締結への取り引きにしようとして、かれらを大歓迎し、その事実を日本の大君（徳川将軍）に通告して、ペリー総督が浦賀に来船、漂流民救助を機縁に両国の親交を結ぶよう国書を奉呈した。

浜田彦蔵らの漂流民救出は、鎮国の幕府にアメリカと国交を結ばせ、彦蔵らは「開国の一滴」として、文明開化のトビラを開かせたのである。

彦蔵はアメリカでの「新聞」の見聞を生かして、元治元年（一八六四）六月二十八日、横浜で、日本で初めての民間邦字新聞「海外新聞」を創刊した。（創刊については元治二年五月（慶応元年）の異説もある。）

「海外新聞」は、外国の新聞記事のほんやくのほか、地元、横浜のニュースを伝え、また初めて「広告」も載せており、「海外新聞」の創刊によって、近代新聞の誕生を刺激し、今日のように新聞界の発達をみるにいたった。



わが国最初の民間邦字新聞「海外新聞」
第1号の表紙

□神戸とヒコ

「海外新聞」は、二年余りで廃刊し、長崎に移住していたヒコは、伊藤俊輔（伊藤博文）木戸準一郎（木戸孝允）らと親交を結び、日本憲法制定の蔭の人として力をかけた。

明治五年（一八七二）八月二十日、大蔵省にはいり、銀行制度の草案作成に参画していた。

兵庫（神戸）には、たびたび訪れており、慶応二年（一八六六）十二月二十五日、「兵庫丸」で横浜から長崎に向うときに神戸に寄港し、開港まえの港を見てすでに貿易港として将来性のあることを、ヒコは自叙伝に記していた。また明治元年（一八六八）、長崎の商社の指図で「コスタリカ号」で、大阪に行く途中、開港されて間もない港の活気に触れ、その文明開化の速さに眼を見張った。

ヒコは、そのときの神戸をつぎのように記している。

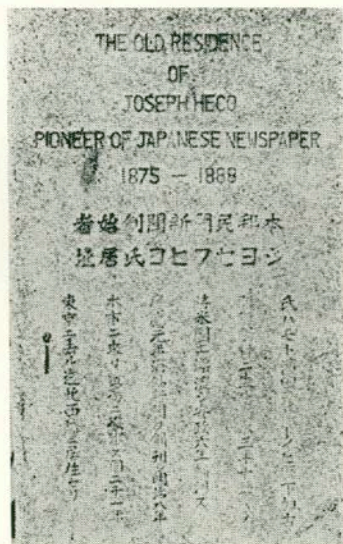
「兵庫に着くと、この土地が先だって（一八六六年）来たとき以来、ひどく変わってしまったことに気づいた。町は交易が自由になっていた。神戸という小さい町は港となり。兵庫の外人居留区になっていた。港内は、停泊の大小種々の船舶でいっぱいであった。―外人の数も多く、万事が活気にみちていた。」

二年あまりのうちに大きな変ほうをもたらししていた「神戸」という街に、ヒコはこのときから興味を持っていた。

大蔵省紙幣寮にいたヒコには、銀行制度の研究より、



新聞の父ジョセフ・ヒコ、浜田彦蔵の碑（兵庫県加古郡播磨町播磨小学校校庭）



神戸の居址碑（神戸救済会病院玄関前）

神戸の貿易に心ひかれ、明治七年（一八七四）十一月十一日から東海道に旅に出て、東京に帰ったところ、兵庫の豪商、北風荘右衛門の東京店総取締（支店長格）清川与兵衛から主家の業務挽回に力をかけてほしいとの要請をうけ、清川の紹介で、十二月一日、二日北風荘右衛門と会って、北風家に協力する旨を約束して、いったん帰京し、この約束を果たすために、神戸に永住を決心して横浜を去り、明治八年（一八七五）五月五日に神戸の土を踏んだ。

そのころの神戸の輸出貿易の王座を占めていたのは、日本茶の外国輸出で、取り引の大部分は、アメリカであった。漂流民としてアメリカで厚遇をうけ、長期滞留ですっかりアメリカの商法、生活様式を身につけていたヒコであり、アメリカとの貿易には絶好の人として、ヒコに期待する者は多かった。北風荘右衛門との初対面まに、すでに大阪の五代友厚（のち大阪商議会議長）が、ヒコに生糸取り引についての援助を要請していた。ヒコは北風荘右衛門とともに、製茶の輸出貿易業務に従い、輸出は日本茶の品質改良にも努力して製茶の貿易振興をはかった。

豪商として回漕、倉庫、金融、両替など多角的に北風本家を維持していた北風荘右衛門の家運は、このころから下り坂で、ヒコの協力で開業した製茶の輸出貿易商も資金的に行きづまり、またヒコの生活態度、アメリカとの貿易関心度にも疑問を持った。

ヒコの自叙伝と対照的な「喜多文七郎日誌」（北風家惣支配役）に北風家とヒコとのいきさつについて多く触れているが、北風荘右衛門の方針とヒコの着想は相容れられず、ついに九カ月ほどで北風との製茶輸出を止めヒコは単独で製茶輸出に従った。ヒコはアメリカ国籍であり、日本人でありながら神戸では、自分の名義で商売ができず明治九年に親戚の者の名をかりて居留地に事務所をひらき、貿易会所にも登録して事業をはじめたが、神経痛を病み、間もなく製茶輸出貿易商を閉じた。

□武藤山治も住んだヒコの居所。

ヒコは英文の自叙伝、「The Narrative of a Japanese」(ザ・ナレティブ・オブ・ア・ジャパニーズ)（一日本人の物語）上下巻を明治二十五、六年に刊行しているが、この原稿の整理を在日、日本史研究家のマードック（夏目漱石の恩師）に依頼するとき、私事にわたる部分はなるべく削除して歴史記述を尊重してほしいと希望していたので、明治八年（一八七五）から明治二十一年（一八八八）までの長い間、神戸で生活しているのに、神戸での私生活については自叙伝に余り触れていない。

明治二年（一八六九）中山手通六丁目二十二番地に永代借地権を得ていたが、別の土地、中山手六丁目九十二番地（現在の神戸救済会病院西隣り）に洋館平家建と和風二階建の家を新築し、ここで結婚した北白川宮の侍臣、松本七十郎の娘、銀子夫人と暮らした。義父はヒコの自邸でなくなり、追谷墓地に葬われていた。

明治十四年（一八八一）、かねて親交のあった県令、森岡昌純に勧められて蒸気式精米所をつくったが、人件費がかさんで利益があらがないので賃貸していた。

この精米所の蒸気機関を応用して、神戸で初めて街頭に明るい電灯がついた。

明治十七年（一八八四）十二月二十六日のことで、兵庫県の八木本書記官の依頼に応じて蒸気機関を貸したところ、これで発電機をまわして海岸通り、居留地の街灯実験に使った。「この実験が、いま神戸の街路のすみずみにわたる明かるい光の輝きの起源であった」とヒコも述懐している。

「海外新聞」を創始しただけに、神戸での生活の中でもっともヒコを楽しめたのは「新聞」で、邦字新聞、外字新聞をよく読み、それだけに国際事情、国内の経済事情にも明かるかった。天皇誕生日に知事招待のダンス・パーティに行き、急速な神戸の欧風化にずいぶん驚かされた。

しかし、持病の神経痛はよくならないので、明治二十年（一八八七）三月上旬、東京に転地療養に出かけた。

その途、当時首相であった伊藤博文と奇遇、かたい握手を交わした。長期療養のため、東京に移住を決心して、明治二十一年、銀子夫人ら家族とともに根岸に移り、その後、原町に転じ、さらにゼームス坂のゼームス方に寄寓していた。

ヒコの神戸居宅に鐘紡社長、のち「時事新報」の経営に参画していた武藤山治が、青年時代、アメリカで新聞学、広告学を学んで帰国して日本で初めて、「広告取次所」をつくり、横浜のジャパン・ガゼット新聞社に入社し、のちに鐘紡兵庫工場建設時代の明治二十六年前後に、千世子夫人との新婚生活を過していた。ともに「新聞の人」として、これは奇縁でもあった。

□ファーストマン・ジョセフ・ヒコ

嘉永六年（一八五三）、浜田彦蔵は、かれの恩人、サンダース税関長の故郷、ボルチモアを訪れた最初の日本人として歓迎され、また日本人として初めて第十四代の米大統領、ピアースに会見し、幕府禁教後、最初のクリスチャンとして洗礼をうけ、聖名「ジョセフ・ヒコ」を与

えられ、安政五年（一八五八）六月七日、日系米人第一号として帰化、アメリカ市民となり、また奴隷解放のリンカーンにも最初の日本人として会い、リンカーンは「これはこれは、はるばる日本から来られたヒコ君にお目にかかれてまことによろこばしい」とヒコに大きな手をさしのべて握手した。

「海外新聞」も、わが国民間邦字新聞の第一号であった。□晩年のヒコ

ヒコの「ふるさと」への思慕は異常なものがあつた。それはアメリカに帰化して日本に帰ってから「日本人」に還りたいという願いつながるものであつた。

安政六年（一八五九）七月一日、ハリス新駐日公使、ドール横浜領事とともに、ミシシッピー号で日本に上陸してアメリカ人として紹介されてからの苦汁で「ただ願うところは日本のよみ書きをさらに学んで、日本国籍に復帰したい」と念願していた。

「ふるさと」の蓮花寺境内に両親と家族のために英文の墓碑を建立したが、再び故郷に帰れず、心臓病が悪化して明治三十年（一八九七）十二月十二日、東京横綱町の自邸で数え年六十二歳で死去した。

東京青山墓地の「浄世夫彦之墓」に眠っている。銀子夫人もその後なくなり、ヒコと別に田端の大竜寺内に葬むられていたが、昭和四十一年五月二十二日、ヒコの墓碑保存会のねんごろなはからいで、ヒコの墓碑のきわに葬むられた。

開国・新聞の父ジョセフ・ヒコの功績をたたえ、神戸市中山手通六丁目海員救済会神戸病院玄関前に「ヒコの居址碑」が建てられ、また兵庫の大仏さん（能福寺に「伝教大師教化霊場」という英文碑がある。この原文は、ヒコによるものといわれているが、同寺に出入りしていた英語教師の起文という異説もある。加古郡播磨町のふるさと、播磨小学校校庭には「新聞の父ジョセフ・ヒコ、浜田彦蔵の碑」がある。

（神戸新聞社史編纂委員会事務局長）



呉那保磯 みよーや

電話神戸③三三八八〜九番
大阪店阪神百貨店三階
電話大阪③五五四八番
姫路店やまとやしき百貨店三階
電話姫路③一二二一番
衣裳部三宮町三丁目柳筋
電話③五一六五番

おいしい!
楽しい!



神鉄沿線 いちご狩

5月13日～6月11日

栄・二郎・長尾

(栄駅下車) (二郎駅下車) (道場川原駅下車)

★入園料 大人、小人共200円

予約団体180円 幼稚園団体 大人150円
小人 80円

プラスチック籠入 大籠入 化粧籠入

★おみやげ代 180円 200円 300円

・期間中主要駅で割引クーポン券を発売します

・いちご狩と有馬ヘルス入浴のクーポン券を発売します

神戸電鉄／神鉄観光

神鉄観光本社 56-2550 湊川案内所 55-7204
三宮案内所 22-0171 小野案内所 小野4985

ご贈答に



瓦せんべい
クリームパピヨン

市内地方配送承ります

亀の井 龜井堂本家

神戸三宮トア・ロード電話 本店33-0001
南店33-1616

"THEY'RE
SO-O-O-O
BEAUTIFUL...
I had to
have both"



サングラス部オープン!

あなたの魅力を
一そうひきたたせる
おしゃれなSun glasses

★ドイツ・アメリカ・イタリアのトップモード
が揃いました。

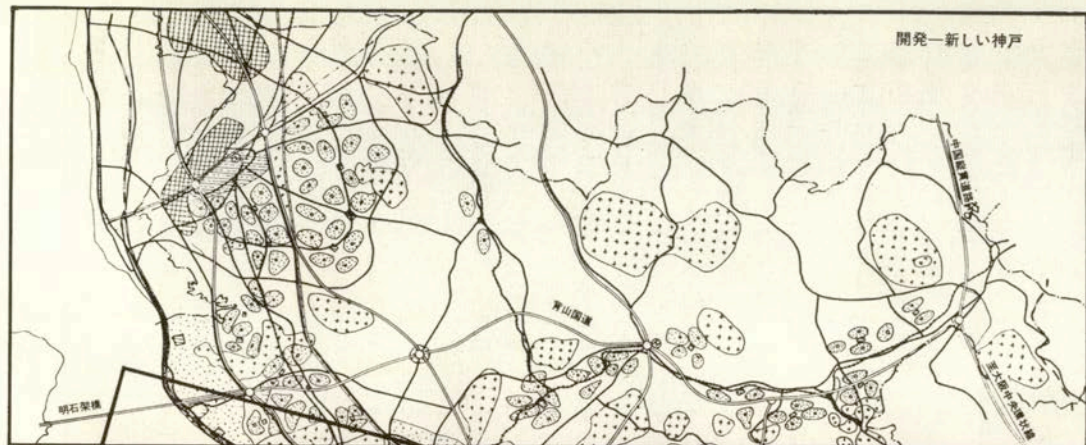
★最新型〈ドイツ製〉加工機械によるスピード
アップと強度な近視のめだたないすり方が
できます。

服部メガネ店

大丸前 TEL (33)1123

神戸のアーバンデザイン
古い神戸と新しい神戸
水谷順介・チーム・UR

②



- 住居地域
- 商業地域
- 住・商混合地区
- 工業地域
- 港湾地区
- 国際文化地区
- 公園・レクリエーション地区
- 温泉地区
- 国鉄
- 山陽新幹線
- 電鉄
- モノレール
- 高速道路
- インターチェンジ
- 幹線道路
- ヘリポート
- バスターミナル

再開発—古い神戸

新しい神戸と古い神戸、すなわち、これからどんな開発していくとする街と、時間をかけてじっくり再開発していかねばならない街をどううまく組み合わせていくか、という課題が、神戸をアーバンデザインする第一のテーマです。明治以来積み上げてきた現在の海岸ぞいの市街地は、道路が車で一ぱいで、緑も少なく、地価も大変高価です。市街地内の大量交通はなるべく高速度交通機関を充実することによって道路の負担を軽くしていく、工場は公害を発生しない研究開発や技術開発のセンターにしてい、住宅は立体化して屋上公園や憩いの場もくみこんでいく、ビジネス街やショッピングセンターには立体歩道をつくって安全な買物を守る、といったことが再開発の目標です。

六甲山という天然の緑の帯をさかいに、新しい神戸が位置しています。北神・西神といわれている地域。最近バラバラにどんどん住宅地づくりが進んでいます。一刻も早く、マスタープランをつくる必要があります。背山国道と神戸電鉄が、開発の軸です。車回りのいいことと豊富な緑が、新しい街のうたい文句です。

古い街と新しい街の特徴をいかしたうまい土地の使い方を誘導していかなければなりません。

水谷頼介+チーム・UR
洋風生活のはじまり
神戸のモダンリビング

②



静かなたたずまいをみせる北野町の異人館

神戸の街のデザインの心のふるさととは、港の旧居留地の街割りと山手の異人館の風情だ、といわれています。港は、働くところ、山手は住むところ、それを往復する坂道に、商店街といったなりたち、神戸の近代都市のはじまりです。異人館を研究してきた坂本勝比古さんは、「明治の異人館」で「神戸の山手を歩くと、舗装された道路にそって、また細く曲がりくねった路地の奥に古びたベンキの肌をみせて、異人館が建っている。これらの異人館の庭には多くの草花や樹木が植えられているが春には白い木蓮の花が赤煉瓦の塀越しに匂い、梅雨のころは、泰山木の大きな花卉が強い香りを放ち夏は赤い夾竹桃やダリヤ、秋は紅葉、そして冬は落葉樹の細い梢の影が、西日を受けた下見板に映って余韻を漂わせている。開港以来百年近く、多くの外人が生活し、帰っていった。また、生涯を終えた人も少なくない。彼らにとって異郷の地での生活は、いろいろの想い出を生んだであろう。そのような風雪を、異人館は秘めている」と記している。洋風のプランとデザイン、それに日本の材料と大工さんが加わって、新しい街並みを生み出しました。そして板間の洋風の生活は神戸に洋家具づくりの技術を要求したのです。